

しゅうれんかい（修練会）からのメッセージ

公益財団法人豊島修練会 2016年3月24日号（通算第6号）

子どもたちへ（小さなお子さんには読んであげてください）

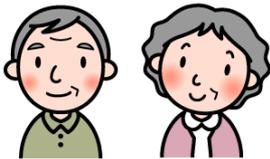
通知表をもらうじきが近づいてきました。「よくできているかな？」「あがっているかな？」「もし、さがっていたらどうしよう」と、心配になっている子が多いと思います。自分はがんばったと思っている子は、心配しなくていいですよ。

「よくできていた子」「あがっていた子」は、「ばんざい」と大喜びをしてください。そして、次の学年の1学期はもっとがんばりましょうね。

「さがっていた子」は、「さんねん！」とくやしがってください。そして、次の学年の1学期は、勉強の仕方を工夫して、がんばりましょうね。思い通りにいかないことは誰にもあります。次がんばればそれでよいのです。



大人の皆様へ（パパ&ママ、ジジ&ババ）



通知表は、誰でも甘辛の思い出があるものです。その時期が近付くと、勉強をしないでいようものなら「成績がさがったらどうするの！」と、よく叱られたものです。

気持ちはわかりますが、とにかく大人は、成績が「下がった」「上がった」、「Aがいくつあった」「もう少しがいくつあった」などと、自分の子どもの頃のことは棚に上げて、我が子を厳しく見がちです。

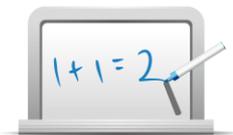
当然ですが、よくできた子には、たくさんほめて、一緒に喜んで上げましょう。その上で、来学期に意欲をつなげるように、「頑張ったからできた」ことを強調しておきましょう。

あまりふるわなかった子には、まず、よいところを見つけて、「こんなにいいところがある」と大げさすぎるくらいに褒めてあげてください。そのあとで、「来学期は、ここを頑張るといいね」と、「あっさり、簡潔」に注文を付けるようにすると思います。叱咤激励しても、ますます勉強嫌いをつくるようなものです。

「来学期を楽しみにしているよ」と、前向きにしてあげましょう。

学校の先生がたへ

ある本を読んでいたら通知表は、その子が大人になった時に、「これが、お父さん（お母さん）の小学校〇年生の時の通知表だよ」と言って、我が子に見せられるようにするものだと書いてありました。決して、おまけをしるということではありませんが。



K市のK小学校の2年3組の担任の時、校内研究（算数）で、繰り下がりのある2位数－2位数の計算（ $48 - 19$ ）の仕方を扱いました。いつも早とちりのMK君が、29と正解を出しました。「MK君、今日はよく頑張ったね。繰り下がりのある難しい計算ができて素晴らしい！」と褒めたら、「違います！繰り下がりなんてわからないので、簡単な仕方で答えを出しました」、「どう考えたの？」の問いに、「48から20ひいて28、ひきすぎた1をたして29にしました」と。

参観していた先生方が、どっと笑い、本時のねらい「繰り下がりの理解」に戻すことに苦労したことを苦く思い出します。MK君の2年生らしからぬ工夫のすごさに比べて、自分の「子どもを見取る」力量の稚拙さに、研究協議会も上の空でした。

